

Japanese
Expectation
51-0714

期待 (エクスペクテーション)

フリント ミシガン州 アメリカ合衆国
1951年07月14日



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

期待（エクスペクテーション）

1 ありがとうございます。ええ、すべて大丈夫だと思います。ありがとう、バクスター兄弟。

こんばんは、皆さん。今宵またここに立ち、イエス・キリストを礼拝する皆さんに、私たちの心からの愛と、魂の崇敬をお伝えできることを本当に嬉しく思っています。

今夜が素晴らしい夜になることを信じています。もし昨夜以上になるとしたら……正直、私たちがそれに耐えられるかどうか分からないほどです。

私のこれまでの奉仕の生涯の中で、昨夜ほど、神の御霊が速やかに、そして力強く降りて来られたのを見たことはありませんでした。

私はまったく感覚がなくなり、完全に自分を失ったようになりました。ただその場から消えたかのようにでした。

ふと見下ろすと、その光が会場の上を渡って来るのが見えました。そしてその光が、建物全体を覆い尽くしたのです。

何か言おうとしましたが、それ以上一言も口にすることができませんでした。

気がついたときには、どこか駐車場の方で、案内係の人たちが私に話しかけているのが聞こえていました。どちらがどちらなのかも分からないまま、ただそこにいたのです。

2 バクスター兄弟が中に入って来てから、私はようやく少しずつ正気を取り戻し始めました。

そして彼が言ったのです。

「ブラナム兄弟、こんなふう完全に神の力に圧倒されたのは、私の生まれて初めてです。」

そして私は思いました——神が私たちをどれほど素晴らしく取り扱っておられたことか、と。

あのようなことは、これまで一度もありませんでした……。

ここ二、三晩、私はこれをしようとしていたのですが、ずっとポケットに入れたままでした。

皆さんのご親切に対して、感謝を申し上げたかったのです。幾人かの方々が贈り物を送って下さいました。

どんなことであれ、誰かがしてくださることは、私は心から感謝しています。

今夜ここに入って来たとき、テーブルの上に花束が置いてありました。二つの美しい花束でした。

D-e-n-n-e-r-s……デナーズ、と読むのでしょうか、この町のご家族から送っていただいたものだと思います。

今夜ここにおられるかどうか分かりませんが、もしおられるなら、その美しいお花を本当にありがとうございます、と申し上げたいのです。

デナーズの皆さん、心から感謝します。

3 それから次に、息子が一通の手紙を持って来てくれました。

その中には五ドルの愛の献金が入っていました。S-a-n-d-r-e-s-k-y兄弟からでした。

その手紙には、こう書いてありました。

「あなたを両腕でしっかり抱きしめたいです。」

兄弟、それは私もまったく同じ気持ちです。

私のほうこそ、ぜひそうしたいと思っています。

それから今日、うちの坊やが入って来て、大きな蜂蜜の瓶を二つ、そして赤いラズベリーのを二つ持って来てくれました。たぶんラズベリーだと思います。

もう本当に……どれほど感謝しているか、皆さんには分からないでしょう。

私は蜂蜜が大好きなんです。ラズベリーも大好きです。

それを一緒に混ぜたら――

もう最高ですね、そうでしょう？

4 私が今まで見た中で、いちばん可愛らしい出来事の一つは、ある山での釣り旅行のときのことでした。

私は釣りと狩りが本当に好きなんです。

山の中でテントを張って、春先のトラウト釣りをしていました。

ほんの少しの間でも人混みから離れたくてね。

それに、私はパンケーキが大好きなんです。

ここにも同じ仲間がたくさんいるでしょう。

でね、私はパンケーキに蜂蜜をかけるのが好きなんです。

ひとつ理論があつて、今でもそれを守っています——私はバプテストですからね。

ちよつと振りかける程度じゃありません。

本当に“注ぐ”んです。

上からたっぷりかけて、完全に“バプテスマ”してしまうんです。

だからいつも大きなバケツいっぱいの蜂蜜を持って行くんですよ。

ある日、ぐるっと回って戻って来ると、物音がしました。

見ると、母熊と二頭の子熊が私のテントに入り込んでいたのです。

もう、テントはめちやくちや。

カメラを持っていなかったのが残念でした。

そのうちの一頭は母親と一緒に逃げて行きました。

でももう一頭は、そこにちよこんと座っていたんです。

その子は蜂蜜のバケツのふたを開けてしまっていました。

小さな前足を中に突っ込んで、ぐっと押し込んでから引き上げて、ペロペロと舐めているんです。

もう、足の先から頭のとっぺんまで蜂蜜だらけ。

目の中にまで入っていて、きよろきよろと周りを見回していました。

そして、私のほうをじっと見たんです。

まるで——何の悪びれもなく。

叱られるなんて思ってもいない様子で、

また手をバケツに突っ込んで、もうひとすくい取ったんです。

5 そして私は思いました——

あれはまるで、昔ながらの聖霊の集会のようだ、と。

まわりに誰がいようと関係ない。

とにかく自分の手が蜂蜜の中に入っていさえすれば、それでいいんです。

そうでしょう？

そうですとも。

ただペロペロと舐めている。だから、舐めている人を責めることなんてありませんよ。大丈夫なんです。

でもね、あの子たちは本当に楽しい時を過ごしていました。

私はその小さな子熊を見て、もう可笑しくて、脇腹が痛くなるほど笑いました。

そして、そのままそっと立ち去ったのです。

蜂蜜のバケツは失いましたけれどね。

そのまま、好きなだけ舐めさせてあげました。

ですから、本当に感謝しています。

その蜂蜜は、明日の朝、しっかりいただきますよ。

本当にありがとうございます。

担架を片づけなさい。

イエス・キリストの御名によって。

担架をどけなさい。

牧師の皆さん、前に出てきてください。

壇を降り、会衆の中を歩きながら、

人々の上に手を置いてください。

癒されたい人はどれくらいいますか。

そこにいる貧血のあなた。立ちなさい。

イエス・キリストがあなたを完全にされます。

アーメン。

担架を外へ出してください。

車椅子に座っているあなた、どうですか。

今、信じなさい。

あの水頭症の男の子はどうですか。

その子の頭に手を置きなさい。

心から信じなさい。

そこです。

ハレルヤ。

牧師の皆さん、会衆の中へ入りなさい。

皆さん、手を挙げなさい。

この場所全体が——

何も疑ってはなりません。
主イエスを信じなさい。
そうすれば、あなたは完全にされます。
信じますか。
こんにちは、あなた。
今あなたに起こっているこの感覚をどう思いますか。
それが神から来ていると信じますか。
信じていますね。
そうであるべきです。あなたは牧師ですから。
そうでしょう。
あなたは関節炎のために、しばらく奉仕から離れていましたね。
再び戻ろうと祈り続けてきましたね。
その杖を肩に担ぎなさい。
壇を降りて行きなさい。
そしてイエス・キリストの御名によって福音を宣べ伝えなさい。
さあ、「主をほめよ」と言いましょう。
主は癒されました。
あなたはどうか、姉妹。
胃の病がありますね。
担架の上で、心から信じますか。
立ちなさい。
そして癒されなさい。

6 さて、礼拝ですが……
ここは本当に暑いですね。
私はほんの少しだけ、皆さんの放送を聴くことができました。
途中で呼びに来られたので、全部は聴けませんでした。
でも、本当に美しく聞こえました。
皆さんが演奏し、歌っておられるのが。
あの……ここにあるあれ、ほら、この機械の上で演奏している人たち。
私はあまり音楽に詳しくありませんが……。
オルガンや、あのトランペットか何かの音。
本当にきれいでした。
「Onward Christian Soldiers」——
そして皆さんの声がひとつに溶け合って。
私は、思わず少し涙を流してしまいました。
というのも、いつの日か、神の聖徒たちが栄光へと行進していく、その時のことを思ったからです。
あの大いなる時を思い浮かべると……
胸が震えるのです。

7 今日の午後、バクスター兄弟が私のところに来て言いました。
「ブラナム兄弟、明日はあなたが説教することになっていますよ。」
おやまあ……。
私は言いました。「バクスター兄弟、私は説教はできませんよ。」
あんな立派な方が説教した後で、私が、ですか。
そして彼は——

つい先ほど、また私のところに来てこう言いました。

「皆さんは、明日あなたの生涯の証しを聞きたいと思っています。」

それなら……

それはできます。神の恵みによって。

明日の午後、たしか二時半ごろにはここに来たいと思っています。

皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

できるだけ手短かにいたします。

そしてどうか、罪人の方々、まだ悔い改めていない方々を明日お連れください。

そうすれば、私たちは招きの時(祭壇への招き)を持つことができます。

そして神が、ご自身の栄光のために、多くの魂を与えてくださるかもしれません。

8 さて、ほんの少しの間ですが、御言葉をいくらか読み、少しだけお話しし、証しも一つほどして、それからできるだけ早く祈りの列に入りたいと思います。

というのも、今夜こちらへ来るときに(迎えに来られたのですが)、この講堂は五時ごろから満席だったと聞きました。

そして、ある方は、前のほうの席を取ろうと、朝六時に来るつもりだとおっしゃっていたそうです。

これ以上お入りいただく方法がないのは本当に残念です。

消防法の規定で、ここに入れる人数が決まっているのです。

けれども、こうして共に集まっている今、皆さんがすでに素晴らしい時を過ごされたことは、私はよく分かっています。

もしここで「アーメン」と言って帰ったとしても、それでも素晴らしい夜だったでしょう。

しかし今、あなたと私で、神にお願いしようではありませんか。

心から信じますか。

あなたは貧血ですね。

よろしい。

主イエスの御名によって、家に帰って元気になりなさい。

あなたの隣に座っている男性。

問題は目だけです。

立ちなさい、兄弟。

癒されなさい。

イエス・キリストの御名によって、その眼鏡を取りなさい。

ほら、癒されました。

その次のご婦人はどうですか。

祈りのカードはありますか。

ありませんね？

イエスを信じますか。

それなら家に帰って、好きなものを食べなさい。

胃の病でしたね。もう癒されています。

立ちなさい。

さあ、「主をほめよ」と言いましょう。

(少し待ってください。)

71 さあ、患者をお連れください。

皆さん、静かに。

神を信じなさい。

主イエスの御名によって。
 誰か、彼女を助けてあげてください。
 ほら、立ちましたよ。
 ああ、腕がまっすぐに伸びました。
 さあ、「主をほめたたえよ」と言いましょう。
 その通りです。
 主イエスの御名によって。ハレルヤ。
 その調子です、姉妹。
 あなたは健やかな女性になります。
 では、その隣に座っている男性はどうですか？
 祈祷カードはお持ちですか、紳士？
 信じていますか？
 こちらを向いてください。
 具合が悪いのですか？……はい、そうですね。
 若い方、聞きますが、あなたは兵士でしたね？
 そうでしょう。
 海外で、ジャングル熱のような病気にかかりましたね。
 そうですね？
 立ち上がって、癒されなさい。
 主イエスの御名によって。アーメン。

70 次はどなたですか。祈りのカードを持っていない方は？
 そちらのご婦人、あなたは祈りのカードを持っていませんね？

そして、神が私たちの祈りに答えてくださると信じましょう。
 今夜、この列に座っておられるすべての人を、神が癒してくださるように求めましょう。
 一人残らず。
 9 バクスター兄弟が入って来たとき、息子が私に何か話しかけていました。
 昨夜、遠くのほうで彼の声が聞こえていたのです。だんだん近づいて来るのが分かりました。
 「ああ、私は意識を取り戻しつつあるのだ」と感じました。
 そして彼が言いました。
 「パパ、大丈夫？」
 私は答えました。
 「ああ、大丈夫だよ。」
 忘れることができません。
 あの子が初めて主の御使いを見たときのことを。イリノイ州ヴァンダリアでのことでした。
 そのとき集会をしていて、私は人々にこう挑戦しました。
 「誰でもいい、連れて来なさい。十分な時間を私に与えてくれれば、その人は癒されます。」
 すると、彼らは一人の少年を連れて来ました。
 生まれつき目の見えない子でした。
 私はその少年と、およそ一時間四十分ほど共にいました。
 そして――
 その少年は、自分の目で見えるようになって、壇上から歩いて降りて行ったのです。

しばらくして彼は戻って来て、私のネクタイをつかみました。

そして言ったのです。

「お母さん、これは……何色って言うの？」

その子は、生まれながらにして盲目だったのです。

彼はもう、喜びに満ちあふれていました。

人々は叫び、歓声を上げ、会場は騒然としていました。

10 その夜、私たちはホテルに泊まっていた。

私は祈っていて、ほとんど眠りに落ちかけていました。

ふと目が覚めたとき、私は分かったのです。

主がその部屋におられる、と。

どこから来られるのかは分かりませんでした。

けれども、しばらく待っていると、それがこちらへ——ベッドのほうへ近づいて来るのを感じました。

私はベッドから起き上がりました。

兄と、幼い息子が隣のベッドに寝ていました。

その臨在が近づいて来るのを感じ、私は床にひざまずいて祈り始めました。

どんどん近づいて来ました。

声は聞こえません。ただ待っていました。

そして私は言い続けました。

「主は、私に何を知らせようとしておられるのですか。」

すると、部屋の中で声が語り始めました。

「それをしてはならない。それをしてはならない。」

神が私をあなたのために——いや、神ご自身のしもべとして遣わされたと信じますか？

私がここに立っている神の預言者であると信じますか？受け入れますか？

よろしい。では……もし私があなたに何かを告げたら、信じますか？

イエス・キリストは、たった今あなたの腫瘍を癒されました。

立ち上がりなさい。健やかになりなさい。

よろしい、そのまま帰って、今それが通り過ぎるのを見なさい。主イエスの御名によって。

その隣に座っているあなた(そうです)、

心から信じますか？

これが神の預言者であると受け入れますか？

そうですか。

その花粉症から解放されたいと思っているでしょう？そうですね？

よろしい、立ち上がって、それから解放されなさい。

主イエスの御名によって、あなたの癒しを受け入れなさい。アーメン。

69 彼女の隣に座っているそのご婦人はどうですか？

どう思いますか、姉妹？心から信じていますか？

ちょっとこちらを向いてみてください。

私を神の預言者として信じますか？

信じますか。

よろしい。

あなたは血行不良がありますね。それが原因で、まるで麻痺のような状態になっている。

立ち上がって、あなたの癒しを受け取りなさい。

主イエスの御名によって、行きなさい。健やかでありなさい。

さあ、「主をほめたたえよ」と言いましょう。

67 ああ、なんという夜でしょう。

皆さん、神が私の証人です。私は今、とても弱くなっていて、この壇の上に立っているのもやっとなのです。本当です。会衆の中で何かが起こっています。

さあ、皆さん、できる限り静かに、敬虔でいてください。どうか敬虔に。

その席に座っている姉妹、あなたはどう思いますか？

心から信じますか？もし信じるなら、信仰を持ちなさい。そうすれば神があなたをそこから立ち上がらせ、歩けるようにしていただきます。

そちらのあなた、その婦人に腕を回してあげてください。

驚かせないように。でも、あなたも信じますか？彼女が良くなると信じますか？では、信仰を持つように伝えてください。

泣かないで、お母さん。信仰を持ちなさい。

良くなりたいですか？癒しを受け入れたいですか？

あなたは癌に苦しんでいますね？

さあ、立ち上がりなさい。主イエスの御名によって健やかになりなさい。

「主をほめたたえよ」と言いましょう。

彼女は椅子から立ち上がって、それを受け取りました。

「主をほめたたえよ」と言いましょう。そうです。神を賛美しましょう。

68 祈りのカードを持っていない方はどれくらいいますか？手を挙げてみてください。

その列……どうやら誰も持っていませんね。

その婦人、あなたはどうですか？

信じますか？心から信じますか？

私の使命は、病人のために祈ることであって、あのようなことをすることではない、と。

そして目を開けると――

そこにおられました。

ベッドの上、少し上のあたりで、ぐるぐると回りながら。

私は言いました。

「もしよろしければ、兄と息子にもお姿を見せていただけますか。」

しかし、答えはありませんでした。

神の油注ぎが去っていくのが分かりました。

それが私から離れていくのを、はっきり見ました。

それでも目で追い続けました。

何も答えはありません。

「もしかすると、気に留めておられないのかもしれない」と思いました。

私は枕をつかんで隣のベッドに投げました。

兄が目覚まし、「どうした？」と言いました。

私は言いました。

「ビリーを起こしてくれ。」

兄が言いました。

「ビリー、お父さんが呼んでいるぞ。」

そのとき、ビリーが振り向いた瞬間――

叫び声を上げました。

彼はそれを見たのです。

そして叫び始めました。

幼い息子は私のベッドに飛び込んできて、首にしがみつきながら言いました。

「パパ、パパ、あれを僕に近づけないで。あれを僕に近づけないで。」

私は言いました。

「大丈夫だよ、坊や。あれは……あれは君を傷つけない。」

「それは、パパを導いてくださる主の御使いなんだ。」

11 ビリーは孤児です。

母親は、彼がまだ十八か月ほどのときに亡くなりました。

あの子は、小さな孤児なのです。

私は彼にとって、父親であり、そして母親でもありました。

旅に出るとき、あの子は空港で立ち尽くして、泣きながら言ったものです。

「パパ、行かないで。」

「この地上で、僕にはパパしかいないんだ。」

「ママはいないし……もしパパに何かあったら、僕はどうなるの？」

子どもをそうやって残していくのは、本当に辛いことです。

しかしイエスは言われました。

「だれでも、自分のすべてを捨ててわたしに従わないなら、わたしの弟子と呼ばれるに値しない。」

私たちは何をしても、その名にふさわしくなることなどできません。

けれども、自分にできる分を果たしたいのです。

そして、あの夜のあと——

あの子は初めて主の御使いを見ました。

それ以来、私が出かけるとき、もう心配することはなくなりました。

少し私の後ろへ、あの辺りに立ってください。よろしい。

ああ、皆さん、どうか私を主のしもべとして信じてください。

今、何かが起こりました。静かに、敬虔でいてください。

こんにちは、あなた。

私たちは人生で初めて会うのだと思います。私はあなたに会ったことはありません。あなたも私を見るのは初めてですか？

写真で見たことがあるのですね。なるほど。

あなたは写真を撮るのが好きですか？あなたが撮るのですか？

カメラでは撮らないのですか。写真家ではないのですね。

あなたは心から主を愛していますね？

そうだと私は信じます。

ところで、あなたはある種の衰弱に苦しんでいますね。急にとても弱くなり、目が見えなくなるようなことがあるでしょう？

時々、ふっと崩れるようになるのが見えます。そうですね？

……いいえ、あなたは写真家ではありません。

あなたは音楽家ですね？その通りですね。

それから——胆のうの問題か何かがありますね？そうでしょう？

さあ、こちらへ来て癒されなさい、兄弟。

全能の神、いのちの創始者、あらゆる良き賜物の与え主よ。

あなたの御名によってこの人を祝福します。あなたの祝福をこの人の上にお送りください。

イエス・キリストの御名によって命じる。苦しみの悪霊よ、この人から出て行け。

よろしい、兄弟よ。

壇を降りて行きなさい。福音を宣べ伝えなさい。そしてそのまま進みなさい。健やかでありなさい。

65 さあ、「主をほめたたえよ」と言いましょう。

この牧師は健やかになります。フォートウェインの周りにおられる方は、彼を見ていてください。彼には何も悪いところはありません。ただサタンがつかんだだけです。ただの恐れだったのです。

よく人は言いますね。「気持ちの問題だよ」と。

しかし、恐れさせる何かがそこにあるのに、どうして平気でいられますか？

それから、今癒された牧師先生、よく聞いてください。私が言っていることを分かってもらうためです。

今夜ここに座っている人の少なくとも六十パーセントは、同じことで苦しんでいます。神経の問題で苦しんでいるのです。

正直に言える方、神経で悩んでいる方、手を挙げてください。

どうですか。およそ六十パーセントでしょう？その通りですね。

それで分かるでしょう。私が自分で言っているのではありません。神が私に示してくださるのです。そうでしょう？

あの悪霊があなたから出て行ったとき、この会場全体がその影響を受けたのです。あのようには震えました。私は数分間、目が見えないようになりました。

今この瞬間、その牧師が神経のことで癒されたのと同じように、ここにいる皆さんも癒されることができると、私は信じています。

サタンはこの戦いに負けたことを知っています。

そうです、知っているのです。自分が敗北したと分かっているのです。

ああ、今この瞬間、皆さんは同意しているではありませんか。

人々は癒されています。それは真実です。

66 兄弟たちよ、これは長くは続きません。これは素晴らしいことです。

さあ、その方を連れてきてください。患者さんですね。そうです、その通り。

12 さて、今夜のテキストとしてお読みする聖書箇所は、ルカによる福音書第2章です。

お手元の聖書を開ける方は、ご一緒にお読みください。

神の御言葉は決して失敗することがありません。そうではありませんか。

そして今、親愛なるクリスチャンの皆さんに申し上げます。

神の御使いの塗油があまりにも強く、私はこの会衆を見渡すことさえ、ほとんどできないほどです。

本当です。

私は、最初からそのようになるのはあまり好みません。

少しの間、聖書についてお話ししたいのです。

もともとは証しだけをするつもりでしたが、ほんの少しだけ語らせていただきます。

では、25節からお聞きください。

ルカ 2章25節より

見よ、エルサレムにシメオンという人がいた。

この人は正しい人であり、敬虔で、イスラエルの慰めを待ち望んでいた。そして聖霊が彼の上にあった。

彼は、主のキリストを見るまでは死を見ることはない、聖霊によって示されていた。

彼は御霊に導かれて宮に入り、両親が律法の慣習に従って幼子イエスを連れて来たとき、

彼はその子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。

「主よ、今こそあなたのしもべを、

御言葉のとおり、安らかに去らせてください。

わたしの目が、あなたの救いを見たからです。」

13 では、頭を垂れましょう。
 父なる神よ、時は刻々と過ぎております。
 全能の神よ、どうか私たちにあなたの御心を悟らせてください。
 今夜も多くの人々が集まっています。
 この建物は暑くなっています。
 ああ、私たちは信じています——収穫は熟し、畑は整っていると。
 主よ、今夜あなたの鎌を入れてください。
 刈り取ってください。
 今夜、ぶどうから新しいぶどう酒がもたらされますように。
 信じる者一人ひとりが、まるで神の御霊に酔うかのようになり、
 神の臨在と、その力、そして私たちを病から、罪から贖う、その救いの祝福
 以外、何も分からなくなるほどに。
 主よ、これらの祝福をお与えください。
 そして、あなたのしもべが、あなたの恵みによって、もし可能であれば、わず
 かでも御言葉を語ろうと決心しました。
 どうか助けてください。
 聖霊が神の御言葉を取り、それが属すべき心の中にまっすぐに植え付け
 てくださいますように。
 そして、この集会が終わる前に——
 床いっぱい、人々が立ち上がっていますように。
 これらの寝台や担架から人々が立ち上がっていますように。
 盲人が杖を置き去りにしますように。
 足なえが杖や松葉杖を置いて、歩き出しますように。
 心臓病の者が、もはやそれを持たずにいられますように。

か?“福音。”“Evangel のその記事を読んだ人は何人いますか?” あなたの。
 …を見てみましょう ペンテコステ派の人々は“ペンテコステ派の福音”を受け取
 ります。… はい、記事を読んでいる人が何人かいます。そしてそれは今年の国
 際書籍『“We The People”』に掲載されました。

64 では……もしよろしければ、少しこちらへ下がってください。もう少し後ろ
 へ……。

あの集会では、しるしと不思議が行われましたね? そうでしたね。

そして私はその集会で、海外へ行くこと、どこかで一人の少年が死からよ
 みがえることについて証しました。覚えておられますね。あれは実際に起こる
 約一年ほど前のことでした。しかし、それは起こりました。神は常に、ご自分が
 言われたとおりに物事を成し遂げられるのです。

さて、今ここに立っているときに見えるのですが……あなたは後ろへ少し
 退きましたね。

あなたは福音の牧師ですね? そうでしょう? 牧師ではありませんか?

そしてあなたは神経衰弱に苦しんでいますね? その通りでしょう?

そうですね。

さあ、こちらへ来て癒されなさい、兄弟。

全能の神、いのちの創始者、あらゆる良き賜物の与え主よ。

サタン、この悪霊はうなり声を上げて出て来た。この信仰の挑戦が自分に
 向けられていると知ったのだ。

イエス・キリストの御名によって命じる。この人から出て行け。彼を放してや
 れ。

神があなたを祝福されますように、兄弟よ。

あなたは神経に大きな負担をかけてきました。そして年齢のこともありま
 す。分かりますね、それは時期なのです。男も女と同じように、そういう時期を通
 るのです。

あなたは健やかな人になります。

私は、あなたの方が私より先に入られると信じています。

なぜなら、私はただ、あなた方が切り開いた道の上を走っているだけなのですから。

どうか私のために祈ってください。

そして、ここにいらっしゃる皆さん。私は今、少し試みています……。

こういう形でやるのは初めてです。思い出す限り、一度か二度ほどしかありません。

人が次々に来る中で、識別の霊の働きを求めるのは……。

分かっていますね、兄弟たち？両側から来るのです。(お分かりでしょう?)そのように。

さあ、ここで心から信じてください。

よろしい。

63 わかった、来いよ、兄弟。わかりました、はい、先生、大丈夫です、少しだけお話をさせてください。そして今、私たちはそうだと思います。私の知る限り、私たちは人生において見知らぬ人です。私はしません… 私は。… ああ、確かにフオートウェインの会議には出席していたけど、列に並んでいなかったね。ちょっとだけお話しします、それはただ連絡するためだからです(わかりますか?) あなたの精神。

さて、それは素晴らしい会議でしたね？素晴らしかったです。私が知っている限り、あの有名な本“私たち国民”と呼ばれる新聞、あの集会在、プラットフォームで盲目の少女が癒された夜に行われたのは、そこだけだったと思います。アッセンブリーズ・オブ・ゴッド・ピープル、一小さな盲目の女の子が現れたのはあなたの論文などでした。そして、その辺りの新聞には、彼女が祈られた後は見えなかったと書かれていました。そして、私が少女を脇に連れて行ったとき、彼女の父親はその場所に行き、子供を連れてきて、それを証明し、すべてを証明しました。そして、盲目の霊は彼女から追い払われました。

それが起こったその夜、誰かがそこにいましたか？ええ、手があります；そこに手を振っている人がいます。そうだ どこでも。素晴らしい時間でした。小さな女の子は。… 胃の不調と彼女との多くの問題があり、それが現れました。それを採用する神の集会の人々は何人いますか、彼らの論文の名前は今何です

癌を持つ者も……。

主よ、昨夜あなたが訪れてくださったことを感謝いたします。

そして今夜は、新しい方々が来ているかもしれません。

どうか彼らを一人残らず癒してください。

復活されたキリストの力によって、それを彼らに明らかにしてください。

愛する神の御子、イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。

14 では手短に。どうか、心を一つにして聞いてください。

信仰は聞くことから来ます。そして聞くことは、神の御言葉によるのです。

もし今夜、題をつけるとするなら——実際にそうするわけではありませんが

私はこう言うでしょう。

「期待」

あなたはたいてい、自分が期待しているものを受け取るものではありませんか？

もし集会に来てこう言うなら——

「ちょっと様子を見に行こう。ああいう集会には何かおかしいところがあるに違いない。それを見に行こう。」

あなたは必ずそれを見つけます。

悪魔が、ちゃんと見せてくれます。

しかし、良いものを見ようとして来るなら、

神がその良いものを見せてくださいます。

もし来るときにこう言うなら——

「まあ、私は癒されないだろうけど。とりあえず祈りのカードをもらえるかど

うか見に行こう。でも、もしもらえなかったら……まあ、それでも……」

いいえ、それがそのまま、あなたの受け取るものになります。

あなたが期待しているもの、その通りになるのです。

そう思いませんか？

だから今夜、来るときにはこう期待しましょう。

今夜、もう一度、大いなる注ぎがあると期待しましょう。

もし神が、昨夜と同じことを今夜も繰り返してくださるなら——

私はそれが起こるかどうかは分かりません。

二度、主にお願ひしました。

昨夜の出来事については、バクスター兄弟が皆さんにお話したことでしょう。

あの驚くべきことを——私自身は、まったく自覚していなかったのです。

15 それから、主の御使いが部屋で私に会われました。

私は主に、何か特別なことをして下さるようお願ひしました。

数日前の夜にも、私はお願ひしたのです。

「今夜、私たちのために何か際立ったことをして下さいますか」と。

そして主はなさいました。

長年耳の聞こえなかった女性を癒され、

車椅子に乗っていた女性を立たせて下さいました。

他にも何をなさったか……もう全部は思い出せません。

そして今夜も、私はまたお願ひしています。

私たちのために、何か特別なことをして下さるように、と。

昨夜もお願ひしました。

栄光を見るでしょう。

これはここにいるあなた方にも言っています。そして皆さん一人一人に言っています。

信じなさい。祈りの中にいなさい。そしてイエス・キリストをあなたの癒し主として受け入れなさい。

神に向かって、「私は癒されると信じています」と告白しなさい。

神は今夜あなたを健やかにされます。

そして、あなたが求めたものを受け取るのです。

よろしい。準備は整いました。

では——その人と呼んでください。

62 こんにちは、あなた。

皆さんにちゃんと聞こえるように、少し整えているだけです。ブラザー・バクスター、時々チェックしてくれますか。

さて、兄弟たちよ。ここにいる皆さん、心を一つにして信じてください。

頭を下げ続ける必要はありません。私がお願ひしたときだけで結構です。

ただ、私を信じてください。

私は、あなた方がこれまで長年にわたって宣べ伝えてきた、あの同じ福音を代表してここに立っているのです。

兄弟たちの中には、私よりも年長の方がいますね。

私がまだ小さな少年だった頃、あなた方はすでにこの福音を宣べ伝え、そのために戦っておられた。

私はただ、あなた方が舗装して下さったその道を走っているにすぎません。それだけです。

もし今夜イエス様がおいでになるなら、私は喜んで一步退き、あなた方が先に入られるのを見届けましょう。

ん。

兄弟姉妹よ、油注ぎが深く下る前に、これだけは言わせてください。ここで私がどのように振る舞っているかには、どうか注意を向けないでください。それはただ……その時には、あなたはこの世の中にいるのではないのです。

私は自分がどこにいるかは分かっています。しかし、ほとんどの場合、自分が何を言っているのか、何をしているのかは分からないのです。

61 聞いてください。神の御使いが私にこう告げました。

「もし人々にあなたを信じさせることができ、そして祈るときに真実であるならば、あなたの祈りの前に立ちはだかるものは何一つない。」

そこで私は言いました。

「主よ、彼らは私を信じないでしょう。私は無学なのです。」

すると御使いは言いました。

「あなたには二つのしるしが与えられる。」

そして、そのしるしが何であるかを語られました。あなた方はそれを知っていますね。

「それが行われるとき、人々は信じるようになる」と。

そして、そのしるしが成された後——それは誤りのないものです。真実でしょうか？

そうです、真実です。

では、あなた方はそれを受け入れました。

その土台の上に立つなら、どんなことでも起こり得ます。よく聞いてください。どんなことでも起こり得るのです。

感覚に注意を向けてはいけません。疑いにも、理屈にも、肉的なものにも耳を貸してはいけません。

今夜は聖霊に耳を傾けなさい。

そして、もしあなたがそれを行い、私が言うとおりにするなら、あなたは神の

天の父が、このような特別な祝福を求めることで、私に腹を立てられないことを願っています。

というのも、御言葉にはこう書いてあるからです。

「しるしや奇跡を見なければ、あなたがたは信じない。」

私たちは、そのような人々の仲間に入れられたくはありません。

私たちは、見なくても信じる者でありたいのです。

そうでしょうか？

私たちはもともと信じているのです。

そして、それを受け取りたいのです。

16 昨夜、私は思いました。

この建物の中に、まだ癒されていない人がいるだろうか、と。

目に見える形ではないかもしれませんが。

神の御使いや幻は、人々の前に現れますが、

それは必ずしも、すべての人のためではないことがあります。

そうではありませんか。

あの星を思い出してください。

それはすべての天文台の上を通り過ぎ、

星を見る人々の上を通り過ぎ、

宗教的な人々の上を通り過ぎ、

神殿の上さえも通り過ぎました。

しかし、それを見たのは東方の博士たちだけでした。

それは、彼らが見るためのものだったのです。

彼らがそれを見たか信じますか。

私は信じます。聖書がそう言っているからです。

ですから、もし神の御使いが、ある人には見え、

他の人には見えないということがあり得るとすれば——

17 たとえば、ある日、私がバプテスマを授けていたときの事です。

川岸には、およそ一万人ほど集まっていたと思います。

そのうち少なくとも七千人は、主の御使いを見たと言いました。

しかし、残りの三千人は見なかったのです。

彼らはこう言いました。

「いや、私は見なかったよ。あなたが叫んでいるのは聞こえたし、手を挙げるのも見えたし、みんなが叫んでいるのも分かった。でも、私は何も見なかった。」

お分かりでしょう？

写真が撮られたときも同じでした。

何百人、何百人もがそれを見ましたが、見なかった人もいました。

聖書の時代でも、同じことがありました。

そして今日でも、同じです。

東方の博士たちは、ヤコブの星が昇るのを期待していました。

彼らは東方から来ており、バラムの預言を聞いていたのです。

そこには、ヤコブから一つの星が昇ると書かれていました。

彼らはそれを探していました。

期待していたのです。

そして——

見たのは、期待していたその人たちだったのです。

よろしい。

誰か、カードを見てください。

100番から……いや、何番を呼びましたか、バクスター兄弟？

ああ、90番から100番ですね。

90番から100番です。

耳の不自由な方がいたら、聞こえないかもしれませんから。

隣の方のカードも見て、順番が正しいか確認してください。

少し遅くなっていますが、できるだけ……。

どうか私のために祈ってください。

私は……。

兄弟たち、私のために祈ってください。

これは……とても難しいのです。

(言葉が不明瞭)

御霊が私を保ってくださいるように……。

60 はい、そうです。よろしいでしょうか……。皆さん、今夜このように長くお話ししてしまったことをお許しください。皆さんの時間をたくさんいただいてしまいましたね。でも、私は皆さんを本当に愛しているのです。だから去る前に、福音についてどうしても幾つかの言葉を伝えたかったのです。

ああいうふうに語ったあとで、すぐにまたこの別の油注ぎの中へ入っていくのは、なかなか難しいのです。まったく違う感覚なのです。普通に話しているとは違います。しかし今、神が皆さん一人一人を祝福してくださいるように祈りませう。

さあ、今ここで心から信じる方はどれくらいいますか？そうです。手を挙げたままで、こう言ってください。「ブラナム兄弟、今夜あなたの祈りに神が答えてくださるよう、私は神にしっかりとすがっています」と。そうしていますか？よろしい。ほとんど百パーセントですね。それなら、何かが起こらないはずがありません。

それがあれば、すぐに退きます。

それを恐れているのです。

本当にキリストの血があなたの背後にあり、

あなたの信仰を支えているなら、

そのように前進するとき、彼は退きます。

彼はそれを見分けるのです。

さあ、皆さん、静まりなさい。

59 ビリーはどこだ？よし。どの祈祷カードを配ったんだ？

Zだな。どこまでだ？

51番から100番までか。

では、10人ほど取りましょう。

90番から100番までにしましょう。

Z-90番から100番までの方、

カードの順に、こちらにすぐ並んでください。

さて、ここで祈祷カードを持っていない方はどれくらいいますか？

手を上げてください。

ああ、いいですね。

前の列の方々、そうです、そのまま。

来てくださってうれしいです。

そのまま、こちらを向いて座っててください。

会衆の中で、祈祷カードを持っている方はどれくらいですか？

あまり多くはありませんね。

18 では今夜、癒されることを期待している方は、どれくらいおられますか。

手を挙げてみてください。

それなら、失望することはありません。

期待しているなら、失望することはありません。

期待していないなら——

「まあ、明日の午後にしようかな。明日の午後に受け取ろう。」

では、あなたは明日の午後に受け取るでしょう。

「うーん、分からないな。もし主が私のところに直接来てくださらなければ、私は受け取れないと思う。」

それなら……。

イエスは言われました。

「あなたの信仰のとおりになれ。」

そうではありませんか。

少し前のことです。

私は、結核性髄膜炎で死にかけている少年のために祈りに行きました。

そのとき、ある人が言いました。

「まあ、ブラナム兄弟、あなたは髄膜炎にかかってしまいますよ。」

「私は子どもたちを外へ出しました。予防接種も受けさせました。」

私は言いました。

「そのような信仰なら、確かに髄膜炎を招くでしょう。」

そのとおりです。

あなたは信じなければなりません。

「信じる者には、すべてが可能である。」

神があなたを解放してくださると期待しなさい。

神は約束されたのです。

そして、あなたの信仰がそれをつかんだ瞬間——

それは去っていきます。

そのとおりです。

あなたが期待すること、それを神はなさるのです。

19 私はシメオンのことを思っていました。

あの時代、彼は年老いた人でした。

当時で言えば、いわば一人の賢者のような存在でしょう。

長い白いひげをたくわえた姿を思い浮かべてみてください。

彼は本当に、神の素晴らしい老聖徒でした。

聖書は言っています——

聖霊が彼の上にあった、と。

信じますか。

そうです、聖霊が彼の上にあったのです。

いつの時代でも、神はご自分の御言葉を信じる者を持っておられました。

ある者たちは御言葉を通り過ぎてしましますが、

必ず誰かが、神がその御言葉を成就してくださると期待するのです。

あの時代もそうでした。

そして今も同じです。

教会は形式的になり、神から離れてしまいました。

彼らは思っていたのです——

そうなるのです。

58 それらは悪霊の力です。

あなたの魂の悪霊ではなく、体に働く悪霊です。

バクスター兄弟が、そのことはすでに説明しましたね。

彼らが対抗してくるとき、私はただ……。

彼らは恐れているのです。

よく見ていると、こちらで誰かが癒されると、

あちらにいる共鳴するような霊が恐れを起こし、

その人から出て行くことがあります。

そのようなことが起こるのを見たことがありますか？

もちろんです。

彼らは、自分が打ち負かされたときがわかるのです。

ごまかすことはできません。

先日ある場所で、「癒しの集会」だと言っていました。

ある男性が壇を踏み鳴らし、蹴りながら、

「悪魔よ、出て行け！ 悪魔よ……！」

と叫んでいました。

しかし、いくら騒いでも、

それでは彼は気にも留めません。

驚かせることはできません。

彼を動かすことができるのは、ただ一つ。

キリストにある真の、神聖な信仰です。

バクスター兄弟が言いました。

「ブラナム兄弟、あの方々が立つ場所は、もうどこにもありません。」

「立てる場所はすべて人でいっぱいです。午後の早い時間から、あるいは夕方から、もう入れない人が出ています。」

「もう、どうしようもありません……。」

そのとき、聖霊が一つのことを私に示してくださいました。

私は言いました。

「兄弟方はそのままの場所にいてください。」

兄弟たちがここにいてほしくない、という意味ではありません。

彼らも信じる者です。

あなた方も信じる者です。

そして、彼らの中にも癒しを必要としている方がいます。

それは本当です。

しかし、それが横から交差してくると、

私は混乱してしまうのです。

おわかりでしょう？

混線してしまうのです。

横を向いて、患者をこちらへ向けると、

きちんと整理された形で導くことができなくなるのです。

ラジオをつけて、三つも四つも局が同時に入ってくるような経験をしたことはありませんか？

それと同じです。

御霊の動きを感じる時、

自分たちのキリスト、イエスは、まだ来ないだろうと。

おそらく、何世代も先のことだろう、と。

しかし彼らが「まだ遠い」と思っていたそのとき、

主はすぐそこにおられたのです。

20 では、シメオンのことをもう少し考えてみましょう。

彼は正しい、年老いた人でした。

そして彼は信じていました——自分が死を見る前に、神がキリストを見せてくださる、と。

仮に彼が八十何歳だったとしましょう。

そして、その場にはもう一人の証人がいました。

宮にいた女預言者アンナ。

バプテスマのヨハネ。

ヨセフとマリア。

そして他にも何人か——残りの者たちがいました。

神はいつの時代にも、必ずどこかに「残りの者」を持っておられます。

そして今夜も、主には残りの者がいます。

そう信じませんか。

今夜、その残りの者とは何でしょうか。

それは主のからだ、地上にある霊的なからだです。

一つのからだへとバプテスマされた人々——

私たちがキリストのからだとなるのです。

それは特定の教会を指しているわけではありません。

神によってバプテスマされ、一つのからだへと入れられたすべての人々を

指しているのです。

一つの教会によってではなく、

一つの御霊によって、私たちは皆、一つのからだへとバプテスマされ、キリストのからだの一員となるのです。

21 あの時代を思い浮かべてみてください。

シメオンが、年老いた姿で通りを歩きながら、こう言っているのです。

「私は死ぬ前にキリストを見るのだ。」

すると、学者たちの中にはこう言う者もいたかもしれません。

「まあ、あの老人の言うことは気にしなくていい。」

「もう年を取って、少し頭がぼんやりしてきたのだろう。」

「気の毒に、良い人ではあるが……。」

「そんな年寄りが何を言っているのか。」

「私たちは何世代も前から待っているのだ。」

「この世の状態を見てみなさい。今来るはずがないだろう。」

しかし、シメオンには一つの理由がありました。

彼が信じたのは——

聖霊がそれを彼に示したからです。

そこです。

神はシメオンに告げられました。

「あなたはキリストを見るまでは死を見ることはない」と。

そして彼は、聖霊が語られたことを真実だと信じました。

あなたは、それができますか。

彼らは、世界の誰と同じように、病人のために祈る権利と務めを持っています。

あなたの牧師も、同じ権利を持っています。

信徒であっても、祈る権利があります。

そうでしょうか？

「互いに罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。」

神の癒しを信じる者は、皆、病人のために祈る権利があります。

ただ一つのこと——

それは、あなたの信仰が高まることです。

聖霊が今夜どうされるのか、私は知りません。

祝福を願い求めました。

主はなさると信じています。

あなたも一緒に信じますか？

主がなさると期待しますか？

それなら、皆さん、敬虔に静まりましょう。

小さな祈禱列を始めましょう。

何人かを呼び、列のどこかで……そして……

それから、他の方々も……。

今夜、主が私たちに何をなされるのか、私たちはわからないのです。

57 今夜こちらへ来るとき、私はこう言いました。

「主よ、すべてをあなたにお委ねします。」

そしてここに来てみると、

すべての牧師方が壇上におられました。

死が喉元であえぎ、
 冷たい霧が魂を包み込むとき、
 いわゆる“死の陰の谷”を下っていくその時、
 私は明けの明星が現れ、
 その谷を照らしてくれるのを見たいのです。
 そしてヨルダンにたどり着くとき、
 聖霊の輝く二つの翼が差し伸べられ、
 疲れた私たちの魂を、より良い国へと運んでくれることを期待しています。
 その時まで、
 御言葉に忠実であられるお方に対して、
 私たちも忠実に生きようではありませんか。
 主イエスの御名によって。
 すべての人は神を信じなさい。
 すべての人は神を信じなさい。
 神を疑ってはなりません。
 ただ信じなさい。

56 さて、どうしたらよいかわかりません。
 牧師の兄弟方をお願いしたいのです。
 どうか今おられる場所にいてください。
 今夜、私を助けていただけますか？
 これらの方々は、神により按手され、任命されたしもべです。

この町の前に公に立ち、イエス・キリストによる神の癒しを信じていることを示しておられます。

シメオンを導いたその同じ聖霊が、
 今夜ここにもおられるのです。
 聖霊が二つあるわけではありません。
 ただ一つです。
 彼を見てください。
 彼は、あなた以上に、あることを信じなければなりませんでした。
 今日では、人々は毎晩、毎日、世界中で癒されています。
 大きな癒しのキャンペーンが至る所で行われ、人々は癒されています。
 しかしその当時、イエス、すなわちキリストは、まだ地上に現れていませんでした。

ただ、来られると預言されていただけです。
 そしてシメオンは、聖霊によって一つの約束を与えられていました。
 彼は、そのお方を見るのだ、と。

22 聖書はこう言っています。

ダビデが言いました。
 「深みは深みを呼び起こす。」
 もし呼びかける深みがあるなら、
 それに応える深みが、どこかに必ずあるはずですよ。
 そう信じますか。
 たとえば、私はよくこう言います。

「魚の背中にひれがある前に、そのひれを使うための水が、まず存在していなければならなかった。」

そうでしょう？

もし水がなければ、魚にひれは必要ありません。
 木が地に生えるなら、
 まずそれが根を下ろすための土が存在していなければなりません。
 もし土がなければ、木も存在しません。
 私は自然を見るのが好きです。
 夕焼けや山々を眺めると、
 そこには何かがあつて、心の奥から呼びかけてくるのです。

23 少し前のことです。

私は家のポーチに座っていました。
 妻と二人で、ぶらんこに揺られながら。
 ちょうど群衆が帰って行った後でした。
 すると、年老いたサンドヒル・クレーンが数羽、川のほうへ飛んで行きました。
 鳴き声を上げながら。
 そのとき、あるご婦人が近づいて来て、
 夕焼けと宵の明星が描かれた、小さなカードを私に手渡してくれました。
 そこには「ただ一つの澄んだ呼びかけ」と書かれていました。
 私はその鶴たちを見ながら言いました。
 「ごらん、神は一日中、あの湿地で彼らを養ってこられた。」
 「今、彼らは仲間のもとへ、滝のほうへ向かっている。夜を共に過ごすために。」
 そして二羽の小さなコマドリ——私の大好きな鳥ですが——
 飛んできて巣の中へ入りました。

昨夜、あなたが御力を現してくださったように、
 もし今夜ももう一度、その機会を与えてくださるなら、
 天の父よ、
 もし再び御自身を現してくださるなら、
 ここにいる病める人々、すべての人が、
 心をついにし、思いをついにし、あなたを受け入れると信じます。
 そして主よ、
 何か月も、何年も語り継がれるような癒しが起こるでしょう。
 どうか、それをお与えください。
 これらの祝福と恵みを、
 主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。
 アーメン。

55 ありがとう、皆さん。

このように暑い中で集まるのは大変だと承知しています。
 それはどうにもできませんが。
 今、この美しい讃美歌「主よ、ともに宿りませ (Abide With Me)」を思っています。
 私の死の時に来て、
 命が私から離れていくその時——
 ああ、神の御使いたちが私を栄光へと運んでくれることを願います。
 いや、それはすでに定められていると信じています。
 その時、あの歌が流れているのを聞きたいのです。
 「主よ、ともに宿りませ。」

その大いなる御力を、
 私たちに見せてください。
 私たち自身のためではありません。
 どうか主よ、他の人々の信仰を強めるために、それをなさってください。
 この講堂でこれから開かれる三回の集会在、
 昔ながらの大いなるリバイバルの始まりとなり、
 諸教会があなたの栄光で満たされますように。

54 主よ、

今夜、私のすぐ後ろで祈っておられるこれらの牧師方、あなたのしもべたちを顧みてください。

ああ神よ、
 彼ら一人ひとりが御力に満たされますように。
 そして彼らの教会が増し加えられ、
 倍の倍に人々が救われますように。
 昔ながらの癒しの力が彼らの教会を流れ、
 大いなるしるしと不思議が現されますように。
 この町が、長く語り続けるような出来事が起こりますように。
 どうかそれをお与えください、愛する神よ。
 今夜、この暖かい建物の中で語るにあたり、
 どうかあなたのしもべを十字架の陰に隠してください。
 そして神の御使いが近づいてくださいますように。
 昨夜のように動いてください、神の御使いよ。
 この建物の上に降りてください。

一日中、ひな鳥に餌を与えてきたのです。
 神は彼らに備えてくださっていました。
 そして夜になると、安全に休む場所も備えてくださっているのです。
 私は言いました。

「きっといつの日か、人生が終わり、私の人生の太陽が沈むとき——あなたの人生も——神はどこかに道を備えておられるに違いない。」

私たちの中には、何かがあるのです。
 あちらに“何か”があると告げるものが。
 深みが、深みを呼んでいるのです。

24 少し前に新聞で読みました。

ある赤ちゃんが、自転車のペダルをかじり、
 鉛筆のゴムの部分まで食べてしまったというのです。
 医者が調べたところ、原因が分かりました。
 その子の体には、硫黄が必要だったのです。
 ゴムの中には硫黄が含まれているので、無意識にそれを求めていたのです。

しかし考えてみてください。

その子の中に硫黄を求める欲求が生じる前に、
 まずその欲求を生み出す何か、内側に存在していなければなりません。
 そして、もし内側にその欲求を生み出すものがあるなら、
 それに応える何か、外側に存在しているはずですよ。
 すなわち、創造主に対応する創造があるのです。
 別の言い方をすればこうです。

あなたの中に欲求があるなら、
その欲求を創られた創造主がまず存在しなければなりません。

そうではありませんか。

創造がある前に、

必ず創造主がいるのです。

25 では今夜、神の癒しがあると信じている方はどれくらいいますか。

手を挙げてみてください。

ありがとうございます。

もしあなたが信じていて、

あなたの内側に「どこかに神の癒しがあるはずだ」と告げるものがあるなら

その欲求を創られた創造主が必ずおられます。

そして、あなたの心に神の癒しを受けたいという願いがあるなら、

どこかに泉が開かれているのです。

それだけのことです。

その泉が存在しなければ、

そのような願いはあなたの中に生まれるはずがありません。

思い出してください。

ずっと昔、教会が形式的になってしまったとき、

人々はもっと神を求め始めました。

すると、御霊のバプテスマが現れました。

分かりますか。

あなたは神をもっと求め、

53 天の父よ、

今夜、あなたの御力を感謝いたします。

あなたの祝福について、

またあなたが私たちのためにしてくださったことについて、

何時間でも証しすることができます。

メンフィスでのあの時を思い出します。

またフォートウェインでの出来事も、

そしてこの国のあらゆる場所でのことを思い出します。

ああ神よ、

今、あなたはここにおられます。

ある人々には、それは不思議に思えるかもしれません。

しかし主よ、

あなたを「昨日も今日も、いつまでも変わることのない方」と信じている私
たちには、不思議ではありません。

私たちは信じます。

あなたは今夜ここにおられ、

御力のうちにおられることを。

昔、シメオンが聖霊の約束を待ち望み、

死ぬ前にキリストを見ると信じていたように……

ああ神よ、

同じ聖霊がここにおられます。

私たちは今夜、

神の御子、主イエス・キリストの御名によってお願い申し上げます。

「いや、覚えていません。」

彼は言いました。

「ママが祈っていたあのとき、主があなたをあそこへ導いたのです。」

そして言いました。

「ブラナム牧師、私は今、完全に健康です。そして今はクリスチャンです。」

クリスチャン——

ああ、兄弟よ。

そしてご存じですか？

あの飛行機は、結局すぐには出発しなかったのです。

何か不具合が起きて、約一時間遅れました。

それでも私はその飛行機に乗り、

きちんと間に合って家へ帰ることができました。

さて、あなたに言わせてください。

「イエス・キリストは昨日も今日も、いつまでも変わることはない方です。」

その御力は全能であり、

決して失敗されることはありません。

あの夜、テネシー州メンフィスにおられた神は、

インディアナ州フォートウェインにおられた神は、

今夜もここにおられるのです。

あなたはそれを信じますか？

同じお方です。

決して失敗なさいません。

飢え渴いていたのです。

そして、神をさらに求める渇きがある限り、

それに応える「さらに多くの神」が必ずどこかにあります。

深みが呼ぶなら、

応える深みがあるのです。

分かりますか。

26 さて、シメオンも同じでした。

彼は、自分の心に飢えがあることを知っていました。

そして聖霊によって、一つの約束を受けていることを知っていました。

「主のキリストを見るまでは、死を見ることはない。」

あの時代には、今日のような新聞もラジオもありませんでした。

ですから、イエスがユダヤのベツレヘムにお生まれになったときも、

羊飼いたちが来て礼拝し、歌い、

東方の博士たちが贈り物を携えて来ましたが、

その知らせは、今のように瞬時に広まることはありませんでした。

そして八日目になると、ユダヤの律法に従って、

母親は清めのためのささげ物を持って来なければなりませんでした。

すなわち、山ばとをささげるのです。

27 では、ある朝の神殿を思い浮かべてみましょう。

奥の祈りの間あたりに、一人の男が座っています。

忙しい朝でした。

もしかすると月曜日の朝だったかもしれません。

人々はひっきりなしに出入りし、
何千、何万という人々が行き交っていました。

その当時、エルサレムとパレスチナ一帯には三、四百万人のユダヤ人がいたと言われていました。

毎晩、五十人から百人、いやそれ以上の赤ちゃんが生まれていたことでしょう。

ですから毎朝、母親たちが列を作り、
律法に従って清めのささげ物をし、
犠牲をささげるために並んでいたのです。

さて——見てください。

私はシメオンが神殿の奥にいるのを思い浮かべます。

ああ、そこに座って、聖書を読んでいる姿が目には浮かびます。

彼は約束を持っていました。

そしてそのとき、ひとつの戸口から——

(テープの空白)

28 今夜、私の名が彼の書に記されていることを、私はどれほど感謝しているでしょう。

イエス・キリストの血によって、そこにこう記されているのです。

「赦された」と。

ああ……。

そのうち皆さんは、私のことを“ホーリーローラー”だと思ってくれるね。

でも兄弟よ、キリストの血が私の罪の書を赦し、忘却の海に投げ入れてくださったことを思うとき、

「ただ、今、あなたの御子イエス・キリストの御名によって、この少年の上に手を置き、その命が守られるよう願います。」

祈りが終わるや否や——

彼の声が聞こえました。

「うーん……」

そして、

「ママ……」

母は顔を上げました。

「ママの坊や、どうしたの？」

少年は言いました。

「ママ……部屋が明るくなってきたよ……明るくなってきた……」

母は泣き始めました。

私は両手を上げ、賛美をささげました。

すると、その大きな少年はベッドから起き上がりました。

完全に回復し、元通りの健康な姿で。

52 それから数か月後のことです。

私は列車で通りかかり、駅で何か食べようと立ち寄りしました。

すると、誰かが叫びました。

「ブラナム牧師！」

駅で小さな荷車を引いて働いている青年でした。

彼は走って来て、私の手を握り、

「覚えていますか？」と言いました。

私は言いました。

私は尋ねました。

「彼は……？」

彼女は言いました。

「わかっていません……」

私は少年に声をかけました。

「今、気分はどうだい、若者よ？」

彼はただ、

「うーん……」

と、うめくだけでした。

彼女は言いました。

「牧師さん、あの子は自分がどこにいるかもわかっていません。

もう二日間、意識がないのです。」

私は言いました。

「もう一度、祈りましょう、姉妹。」

51 私たちは床にひざまずきました。

私は祈りました。

「天の父よ、昨夜どういうわけか嵐が起こり、飛行機は飛ばせませんでした。」

すべてのことが益となるように働くと、信じませんか。

「私は集会へ帰る途中でした。しかし、あなたは飛行機を止められました。」

「今朝、太陽が輝いています。本来なら、もう飛び立つ時間は過ぎています。」

「しかし、どういうわけか、あなたは私をこの道へ導かれました。私にはわかりません。」

私は喜びにあふれずにはられないのです。

心から主を愛しています。

あの昔ながらの神の力——

私を救い、これまで守り続けてくださったその力を思うとき、

今夜も心の底から主を愛しています。

そして私は、昔のパウロと共に立ちます。

「彼らが異端と呼ぶその道に従って、私は父祖の神を礼拝しているのです。」

「私はイエス・キリストの福音を恥とはしません。

それは信じる者にとって、救いをもたらす神の力なのです。」

何と素晴らしいことでしょう。

主は本当に素晴らしいお方です。

29 そして私は、その小さな母の清めの日が来たときの光景を思い描きます。

腕に傷跡を残しながら——

(彼女を見てください。)

産後のしるしを抱えながら、

彼女は幼子を腕に抱いていました。

その赤子は、産着に包まれていました。

聞くところによれば、それは牛がくびきを引くときに背に当てる布のようなものでした。

そこには栄光の王を包むための立派な布など、何もなかったのです。

あなたがどれほど貧しくても、何の問題があるでしょう。

栄光の王が産着に包まれ、

その布にくるまれていたのです。
 天の君が、若い娘の腕の中に抱かれ、
 粗末な産着に包まれていたのです。
 そこには裕福な母親たちも立っていました。
 彼女たちは、その群れの中に交わろうとはしませんでした。
 今でも、そういう心がありますね。
 その中に入ろうとはしないのです。
 マリアはそこに立っていました。
 そして誰かが離れながら言いました。
 「見てごらんなさい、あの人を。」
 しかし彼女は心の中で知っていました。
 自分が誰であるかを。
 神の祝福を受けていることを。
 そして、その祝福が彼女の腕の中にあつたのです。
 ほら、これがこの世の目が見るものです。
 周りを見回してこう言うのです。
 「あらまあ、見てごらんなさい。あの赤ちゃん、ちゃんとした服も着ていない
 じゃないの。」
 「それに、ささげ物も山ぼと二羽だけ。貧しい者のささげ物よ。」
 そこには、子羊をささげる裕福な人々もいました。
 しかし、これは貧しい者のささげ物でした。
 30 人々がそこに立ち、
 若い母がそのすべてを心に納めていたとき——

この世を去る前に、
 救われたという証しを聞きたい、
 それだけでした。
 その年老いた聖徒は、床にひざまずきました。
 私は祈れませんでした。
 彼女の祈りを聞いていて——ああ……
 心をすべて注ぎ出していました。
 涙が頬を流れ落ちていました。
 「主よ、どうか、あの子に“イエス様のもとへ行く”と言わせてください。
 それだけで、私は幸せです。」
 私はただ、ひざまずき、
 頭を垂れ、
 赤ん坊のように泣いていました。
 しばらくして、彼女は顔を上げて言いました。
 「ありがとうございます、主よ。」
 そして息子のところへ行き、
 「ママの坊や……」
 そう言って、また撫でました。
 私は彼の足に触れました。
 氷のように冷たかった。
 死が、その少年の上にあります。
 彼が言いました——

私はこれまで、王の宮殿にも入ったことがあります。

立派な豪邸にも入りました。

しかし、その朝、あの高架橋の下にある小さな門をくぐったときほど、

歓迎されたことはありませんでした。

彼女は本当に嬉しそうに歩いていました。

彼女は知っていたのです。

何かが起こると。

神は、回線の両端におられたのです。

49 それで部屋に入りました。最初にそこにあっただのは、小さな古い看板、“神のご加護がありますように”南で私たちが呼んでいる小さな古いチャングストープ、そこに座っていたもの、そして小さなポスターベッドでした。ここには、体重約180ポンド、17歳か18歳くらい、とても大きくてがっしりとした見た目の男の子がいて、毛布を手にもそこに横たわり、“うーん、うーん”そんな感じで歩いていました。彼は言いました、「“とても寒いです、ママ”。うーん。”

彼女は彼を撫でた。彼女は言いました、“ママの赤ちゃん。”

その時、私は母性愛について考えました。彼が何をしたとしても、どれほど恥ずべきことか；それは母親のまだ赤ん坊でした。彼女は彼の額にキスをした。

そして私は思いました、“母親の愛がそのように進むことができるなら、神の愛は何をするでしょうか？神が「母親は乳飲み子の赤ん坊を忘れるかもしれないが、私はあなたのことを決して忘れない」と言ったとき。」”私は思う、“アメイジング・グレイス、その音はなんと甘美なものか、私のような哀れな人間を救ったのだ。”

50 彼女が息子のそばにいる間に、私は言いました。

「おばさん、祈りましょう。」

彼女は、癒しのことは一言も言いませんでした。

彼女が願っていたのは、息子が救われることでした。

私は見るのです。

聖霊が、その部屋の中で、

あの年老いたシメオンの上に動き出すのを。

「シメオン。

わたしはあなたに約束を与えた。

あなたはそれに忠実に生きてきた。

さあ、立ち上がりなさい。今、動きなさい。」

彼は巻物を置き、

建物の外へ歩き出します。

どこへ行くのか分かりません。

しかし彼は聖霊に導かれていました。

人々の間を通り抜け、

母親たちの列に差しかかります。

列に沿って歩き始めます。

そして、

あの軽蔑されていた若い母の前で止まりました。

粗末な産着に包まれた幼子を抱き上げます。

白いひげから涙がぼろぼろと落ちます。

そして言いました。

「主よ、今こそあなたのしもべを、

御言葉のとおり、安らかに去らせてください。

わたしの目が、あなたの救いを見たからです。」

聖霊が、彼をその子のもとへ導いたのです。

31 同じ時でした。

片隅に座っていた年老いた盲目の女預言者——

聖霊が彼女にも語られました。

すると彼女は、人々の間を縫うようにして進んできます。

目は見えません。

しかしまっすぐに、その場所へ向かいます。

そして手を挙げ、神をほめたたえました。

聖霊に導かれて。

深みが深みを呼び——それに応えたのです。

彼らは期待していました。

そしてそこにおられたのです。

聖霊が、彼らをそのお方へ導いたのです。

長年、私たちは教会に賜物があることを期待してきました。

教会に力があることを期待してきました。

そして今夜、あなたがたが神の癒しを信じ、

同じ聖霊に導かれてここへ来たということは、不思議ではありませんか。

神の祝福がこの建物の上にかかり、

神の臨在の中で信じる者を、だれでも受け入れ、癒そうとしておられる、その場所へ。

あの時代に生きておられた同じ神。

シメオンとアンナをキリストへ導いた同じ聖霊が、

今夜、あなたをここへ導かれたのです。

い。」

「そして今朝……」

「椅子に座ったまま、うとうとしていました。そして夢を見ました。」

「ここへ出て、この門のところに立っていなさい。そうすれば、あなたのような服装をした人がやって来る、と。」

ああ……。

そのときの気持ち、わかりますか？

48 私は言いました。

「おばさん、私の名前はブラナムです。聞いたことはありますか？」

彼女は言いました。

「いいえ、ありません。」

ああ……。

私は言いました。

「おばさん、私は病人のために祈る者です。」

彼女は言いました。

「そうなんですか？」

私は言いました。

「あなたの息子さんに会いに、中へ入ってもいいですか？」

彼女は言いました。

「もちろんですよ、牧師さん。」

そして彼女は、その小さな古い門を持ち上げました。

鎖がついていて、後ろには重し代わりに鋤(すき)の刃がぶら下がっていました。

私は言いました。

「ええ、おばさん。何度も読みました。つい最近も、その箇所から説教しましたよ。」

彼女は言いました。

「わたしも、あの女と同じなんです。」

「主にお願ひしました。もし子どもをくださるなら、その子を主のために育てます、と。」

「主はわたしに男の子をくださいました。そして、十代になるまで育てました。」

「でも、その子は道を踏み外しました。悪い仲間とつき合うようになったのです。」

「今、その子はここで死にかけています。」

「ひどい病気にかかってしまいました。医者も何もできないと言っています。」

「いろんな注射も打ちました。でも……あの子は背教者です。」

「ここで、死にかけています。」

「一昨日から意識がありません。」

「何もわからないのです。自分は大きな、深い海の中において、寒い寒い所にいると思っていますのです。」

「牧師さん……わたしの息子がこんなふう死んでいくのを見るのは、胸が張り裂けそうです。」

「でも、わたしはあの子が救われてほしいのです。」

「一晩中祈りました。」

「そして言いました。『主よ、あなたがあの子をくださいました。でも……エリヤはどこにいるのですか?』」

「主よ、どうかわたしを助けてください。こんな死に方をさせないでくださ

私たちが主イエスの御名によって集まっているこの場所へ。

その力がご自分の民の上に働くのを見るために。

アーメン。

アーメン。

いいえ、それで怖がる必要はありません。

アーメンとは、「そのとおりです」という意味です。

そのとおり。

真理です。

何と素晴らしいことでしょう。

32 あなたは御霊に導かれることを信じますか。

ちょっと証しをさせてください。

少し前、私たちはフォートウェインで集会をしていました。

あのことは、私は決して忘れません。

ここにおられる方の中にも、フォートウェインの集会に来られた方がいるでしょう。

手を挙げてみてください。

何と素晴らしい時だったことでしょう。

あのとき、多発性硬化症の男性が癒されたのです。

その夜そこにいた方はどれくらいいますか。

手を挙げてください。

あそこに、あの年長いた男性が横たわっていました。

体が不自由で——(もしかすると、今夜ここにおられるかもしれません。)

そのように横になっていました。

私は何も知りませんでした。

人々が、その男性を壇上に寝かせようとしていました。

白いシャツを着た実業家でした。

腰から下が麻痺し、十年間、床に伏していたのです。

私は何も知りませんでした。

友人たちが彼を持ち上げようとしていました。

その気の毒な男性は、私のズボンの裾に触れようと必死でした。

しかし、彼らは彼を壇上から連れ戻してしまいました。

33 私はただ座って語り続けていました。

ふと会衆のほうを見たとき、

私は彼の幻を見ました。

彼が癒されるのが分かったのです。

何かの建物の中を、彼が歩いているのを見ました。

私は彼に語りかけました。

「私があなたに手を置いて祈ってほしいのですね。」

彼は言いました。

「はい、お願いします。」

私は壇から降りて行きました。

そのとき、すぐそばに、ひどく体の不自由な小さな年老いた男性が横たわっていました。

その男性は、この実業家の方が手紙を書いていた人でした。

彼は身を乗り出し、私の上着をつかみました。

「ブラナム兄弟、ここにおられる間に、私にも手を置いてください。」

そのまま歩いて通り過ぎようとしていました。

すると彼女が、こちらを見て、にっこり笑いました。

大きな白い歯が見えました。

涙で筋のついた顔でした。

彼女は言いました。

「おはようございます、パーソン。」

私は振り返りました。

※南部では“parson”は「牧師」や「伝道師」という意味です。

「おはようございます、おばさん。」

そして私は言いました。

「どうして私が牧師だとわかったのですか？」

彼女は微笑み、目をぬぐいました。

その時、私は思いました。

「ここだ。何かが起ころうとしている。」

私は御霊を感じました。

十分に歩いてきた、その先で。

ああ……それを思い出すと、

胸が高鳴ります。

47 私は振り返って言いました。

「どうして私が牧師だとわかったのですか？」

彼女は言いました。

「牧師さん、聖書に出てくる、あのシュネムの女の子の話を読んだことがありますか？ 約束によって子どもを授かったあの女性です。」

するとサタンが言いました。

「飛行機に乗り遅れるぞ。」

私は答えました。

「私は歩く。」

すべてのことは可能なのです。

彼に嘘を言わせてはいけません。

彼は偽り者です。

神が導いておられるなら、

神が言われたことを行きなさい。

そうです。

神が「あなたは癒された」と言われたなら、

それを信じて、歩き始めなさい。

私はそのまま歩き続けました。

歌いながら——

♪ ただ信じよ……

46 門にもたれるようにして、一人の女性が立っていました。

いわゆる“昔ながらのアント・ジェミマ”のような、

体格の大きな黒人の女性でした。

男物のシャツを頭に巻いていました。

門に身を乗り出すようにして、立っていました。

私はちょうどその塀くらいの距離まで来たとき、

歌うのをやめ、ハミングもやめました。

そうすれば、私は良くなります。」

そして——

私とその男性に触れた瞬間、

彼は立ち上がりました。

会場は悲鳴のような歓声に包まれました。

覚えていますか。

34 数週間前、その二人から手紙を受け取りました。

あれほど麻痺して、あのよう体が不自由だった男性が——

今ではトラクターで畑を耕しているのです。

そして、多発性硬化症だったもう一人の男性が、

道を通りかかってそれを見ました。

彼は車から飛び降り、

その男性もトラクターから飛び降りました。

二人は畑の中で走り寄り、

互いを抱きしめ、持ち上げ合い、歓声を上げたのです。

それは何でしょうか。

ほかでもありません。

神の御子、イエス・キリストの血です。

主はその力において全能です。

昨日も、今日も、いつまでも同じキリストです。

その力が衰えることはありません。

なぜなら、主は神だからです。

神の定められた秩序は変わりません。

今日の聖霊も、当時とまったく同じです。

かつてエホバを拒むことには罰がありました。

イエスを拒むことにも罰がありました。

そして今日、人々が「熱狂」と呼び、

「愚かさ」と呼ぶこのもの——それが聖霊です。

主は言われました。

「それに対して一言でも語る者は、この世でも、来たるべき世でも赦されることはない。」

今日、聖霊を拒むことのほうが、

イエスや父なる神を拒むことよりも重大なのです。

そのとおりです。

恥じてはなりません。

正しいことのために立ちなさい。

……今夜の私は、どうしたのでしょうかね。

(少し抑えましょう。)

よし。

見ていなさい。

35 あの集会のときのことで。

いろいろなことが起こっていました。

私はインディアナ・ホテルに滞在していました。

どこに泊まっているかは、秘密にしておかなければなりません。

というのも、昼間ずっと病人の方々が押しかけて来られますし、

そのまま南メンフィスの方へ、ただ歩き続けました。

太陽はもう高く昇っていました。

美しい春の朝でした。

花の香りが空気を満たし、

まるで空気そのものが香水のようでした。

「なんと美しいことだろう。」

そう思いながら歩いていました。

「主よ、私はわかりません。あなたは『歩け』と言われました。

ここにいます。私は歩いています。」

ただ、歩き続けました。

歩いて、歩いて、歩いて。

やがてメンフィスのほぼ反対側近くまで来ました。

小さな丘を下りると、

細い小川のようなものが流れていました。

どこか川へ注ぐ支流のようでした。

そのあたりを歩いていると、

白く塗られた古びた小屋がありました。

その辺りには多くの黒人の人々が住んでいました。

私は歩きながら、口ずさんでいました。

♪ ただ信じよ、ただ信じよ

すべてのことは可能だ

ただ信じよ

そう思って外へ出て、郵便局を探しながら通りを歩いていました。
そして、あの小さなペンテコステの歌を口ずさんでいました。
その御力は今も同じだと
あらゆる所で語りあげよう
私もその一人だと言えることが
なんと嬉しいことだろう
ライアン兄弟、覚えていますね。あなたが歌っていたあの歌です。
私はその歌を歌いながら歩いていました。
すると、しばらくして――
何か近づいて来るのを感じました。
「ウー……」
私は大きな柱の陰に一步下がりました。
そして言いました。
「天の父よ、あなたのしもべに何をお望みですか？」
それはなおも近づいて来ました。
「ウー……」
私はしばらく静かに立っていました。
すると、深い声が聞こえました。
「向きを変えて、戻りなさい。」
45 そこで私は向きを変え、通りを引き返しました。
歩きました。
ホテルの前を通り過ぎ、

あのようなときには塗油が下りて来るので、
夜の壇上に立つのもやっとなるのです。
私は、ある看護師のことを覚えています。
メイヨー病院の看護師で、最初期の癒しの一人でした。
マーギー・モーガン夫人。
癌が全身に広がり、体重はわずか四十七ポンド(約二十一キロ)しかありませんでした。
先日の夜、バクスター兄弟たちが彼女と話していましたが、
今では百五十五ポンド(約七十キロ)あるそうです。
あれからもう五年ほど経っています。
医師たちは言いました。
「いやあ、彼女はもうすぐ死ぬでしょう。ただ興奮しているだけです。」
ええ、彼女は今でも“興奮”していますよ。
そして生きています。
それなら、あなたも少し“興奮”してみたらどうですか。
そうすれば、もう少し長生きできるかもしれませんよ。
しかしそれは単なる興奮ではありません。
それは全能の神の力です。
もし単なる興奮で治るなら、
心理学者や医者が「興奮の授業」をすればよいことになります。
興奮があなたを癒すのではありません。
それは、あなたも分かっているはずです。
36 さて、私たちはホテルに滞在していました。

すると若いベルボーイがやって来て言いました。

「ブラナム牧師、申し訳ありませんが、今朝はあの正面のドアからは出られません。」

「講堂は満員です。皆さん、あなたがここにいると知っています。」

しばらく待ちました。

しかし朝食を食べに出る方法がありません。

やがて、もう一人の従業員が来て言いました。

「こうしましょう。もしよろしければ、地下室を通ってお連れできます。奥様たちと一緒に、少し灰の上を越えなければなりません。」

私は言いました。

「かまいませんよ。」

私たちは地下へ降り、大きな灰の山を越えて、裏の路地へ出ました。

そこから「トドル・ハウス」と呼ばれる小さな食堂へ向かいました。

覚えていますか、あの場所を？

あの朝、ミスター・イトンが胃の病で癒されたのは、あそこでした。

私の朝食代を払おうと走って来たときのことです。

37 私は覚えています。

コートの際を立てて、

小さな娘を抱きながら歩いていました。

片側にはモーガン夫人、

もう片側には妻。

私たちは通りを歩き、

いつものトドル・ハウスへ渡ろうとしていました。

彼女は、声の限りに叫び始めました。

その大柄な警官が言いました。

「あなたがブラナム兄弟ですね。」

祈祷列の話をするなら、

その時は通りじゅうが祈祷列になっていました。

人々が立ち、動き始めました。

ああ、なんと素晴らしいことでしょう。

44 少し前のことですが、ダラス(テキサス州)から帰る途中でした。

春のことでした。

飛行機で戻るはずだったのですが、メンフィス(テネシー州)で足止めになりました。

ちょうど五日の夜、メンフィスで一泊しなければならなくなったのです。

航空会社が、ペイボディ・ホテルという所に泊めてくれました。

とても立派なホテルでした。

正直、私には泊まれるような所ではありませんでしたが、航空会社が手配してくれたのです。

その朝、電話がありました。

「ブラナム師、飛行機は八時に出ます。お迎えに参ります。」

「はい、わかりました。」

私は手紙をまとめて、郵便に出そうと下へ降りました。

さて、よく聞いてください。

もうすぐ終わります。

「そうだ、これを郵便に出そう。」

そして言いました。

「まあ……ブラナム兄弟……」

彼女は戻って来ました。

「どうしていいかわからないんです……。自分でも自分がわからないくらいです。」

私は言いました。

「そうは思いませんよ、姉妹。どうなさいましたか？」

彼女は言いました。

「私はカナダから来ました。こちらへ来るのに、年に150ドルしか持ち出しを許されていません。」

「そのお金を、全部使ってしまいました。」

「今朝、ホテルのロビーにいて、コーヒーを飲むための5セントしか持っていませんでした。」

「これからヒッチハイクでカナダへ戻るところだったのです。」

「祈祷の列にも入れませんでした。でも、祈っていました。」

「すると、何か私を振り向かせて、二、三ブロック歩かせ、この通りを横切らせたのです。」

ああ……。

ここにおられる。

私は、彼女が手を押さえているのを見ました。

「腕ですか、姉妹？」

「はい。小さい頃、犬に乗っていて岩に落ち、この腕を傷めたのです。」

彼女がそう話している間に――

腕が、すっと伸びていったのです。

そのときです。

聖霊を感じました。

御霊に導かれることを信じますか。

それなら、よく聞いてください。

「こちらへ曲がりなさい。」

そう言われたのです。

私は方向を変えました。

モーガン夫人が言いました。

「どこへ行くのですか？」

すると妻がすぐに言いました。

「今、御霊が導いているのよ。

よく見て、ただついて行きなさい。」

私たちは通りを下って行きました。

どこへ向かっているのか、自分でも分かりません。

しばらくして立ち止まり、看板を見上げました。

「ミラーズ・カフェテリア」

私は中に入りました。

(もしかすると、その方々は今夜ここに座っておられるかもしれません。)

私は中に入り、

確かホットチョコレートか何かを頼んで座りました。

モーガン夫人たちも一緒です。

食事の前の祈りをささげ、顔を上げたそのとき、

私は娘に何か話しかけました。

すると、一人の女性が立ち上がり、叫びました。

「神をほめよ！ 神をほめよ！」

私は一瞬、どうしたのかと思いました。

モーガン夫人が振り向いて言いました。

「もうここから逃げられませんよ。」

私は言いました。

「モーガン夫人、そんなことを言うてはいけません。」

「これは聖霊です。」

38 この女性が、手をもみしながらこちらへやって来ました。

「ブラナム兄弟、私はテキサスから来ました」と彼女は言いました。

「私の兄は心臓の病気で、もう死にかけています。」

そしてこう言いました。

「私たちはこれまで、八回か十回の集会を回りました。でも一度も、祈祷カードが呼ばれて列に入ることができなかったのです。」

さらに彼女は言いました。

「今回ここに来るために、私たちは牛を売りました。

医者が、兄はもう長く生きられないと言ったのです。」

心臓の…横隔膜を傷めた何かの故障でした。

「あと数週間しか生きられないと言われました。

これが最後の望みだったのです。」

そして彼女は言いました。

「昨夜まで、私たちはずっと待ち続けました。

そして思いました。

「さて、何が起こるのだろうか？」

すると、大柄なアイルランド系の警官が、また笛を吹きました。

歩行者たちが通りを渡りました。

その後ろから、一人の小柄な女性がやって来ました。

チェック柄のワンピースを着て、

同じくチェック柄のタム帽をかぶっていました。

どこかカナダ人のような雰囲気でした。

腕にはハンドバッグを抱えていました。

うつむき加減で、こんなふう歩いて来ました。

その時、聖霊が言われました。

「ここに立っていなさい。」

彼女は、私のすぐそばを通り過ぎました。

そのまま、まっすぐに。

私は思いました。

「どういうことだろうか？」

彼女は少し先へ行きました。

「おかしいな……。」

ここで彼女のそばに立っていなさい、と言われたのに。

どういうことだろう。

もしかすると、ただ通り過ぎる時に祝福を受けただけなのかもしれない。」

43 しばらくして、その女性は振り返りました。

釣り道具の店の方を見ながら、歩いて行ったのです。

そして道の脇に戻って、こう祈りました。

「天の父よ、あなたのしもべを、どこへ行かせたいのですか？」

もしかしたら、ここにしばらく立っていなさいということかもしれない、と思いました。

そこで少し立っていました。

しかし、何も起こりませんでした。

「さて……」

私は角の方へ歩き始めました。

すると、内側で声がしました。

「向こう側の角へ行きなさい。」

ちょうどその時、警官が笛を吹きました。

私は通りを渡り、反対側へ行きました。

そしてそこに、しばらく立っていました。

およそ十分ほどです。

なぜ自分がそこに立っているのか、わかりませんでした。

人々が通り過ぎて行きました。

私はただ、立っただけです。

それだけです。私が知っていたのは、

御霊に導かれている時は、

神が「こうしなさい」と言われることを、そのままなのです。

働いておられるのは、回線の向こう側におられるお方なのです。

42 私はしばらく、そこに立っていました。

でも、もう中に入ることさえできなくなりました。」

「それで、私は一晩中祈りました。」

そして続けました。

「今朝、ちょうど午前四時ごろでした。

私は夢を見ました。」

「その夢の中で、“ミラーズ・カフェテリア”という場所を探して、九時にそこへ行きなさい。そうすれば、あなたの兄は癒される、と告げられたのです。」

私は時計を見ました。

ちょうど九時でした。

何が起こったか、皆さんご存じでしょう。

その少年は癒されたのです。

39 私は振り向いて帽子を取り、ドアの方へ歩き出しました。

すると、人々が叫び始めたのです。

そのカフェテリアは、数分のうちに大騒ぎになりました。

私は出口へ向かいながら、彼らに一言、祝福の言葉を告げて外へ出ようと思いました。

その時、小柄な一人の女性が――

数週間前、サンバーナーディーノで私に証しをしに来ていた人で、ブラジルから宣教師をしている娘さんに会いに戻る途中でした――

彼女が通りで倒れ込み、私の足にしがみついたのです。

「おお、神よ……」

私は彼女を抱き起こして言いました。

「どうしました、姉妹？」

メダ(私の妻)たちも彼女を助け起こしながら、「どうしたのですか？」と尋ね

ました。

彼女はひどい悪性腫瘍を抱えていました。

メイヨー・ブラザーズ(メイヨー・クリニック)にも見放されていました。

彼女の夫はシカゴでスパゲッティ会社を経営している人でした。

小柄な女性でしたが、体はひどく腫れ上がっていました。

彼女は言いました。

「ブラナム兄弟、これが私の最後の望みなのです。」

「私は祈って、泣いてきました。」

「メイヨーではもう手の施しようがないと言われました。

ラジウム治療も受けました。

X線治療も受けました。

できることは全部しましたが、何も効きませんでした。」

そして彼女は言いました。

「今朝、夜明けごろでした。

目が覚めて、外を見ました。

それから、また眠りにつきました。」

「そのとき夢を見ました。

九時十分にミラーズ・カフェテリアの前に立っていれば、癒される、と。」

ああ…。

聖霊による導きを信じますか？

私は信じます。

40 私は通りをさらに歩いて行きました。

もう少し先まで。

(フォートウェインやその周辺から来ている皆さんは、この話をご存じでしょう。)

通りを歩いていると、妻が言いました。

「どうしたの？もう中へ入る準備はできているの？」

私は答えました。

「わからない。」

そこまで来ると、釣り道具が目に入りました。

私はそちらへ向かおうとしました。

その瞬間でした。

聖霊が再び下って来て、動き始めたのです。

これは、私の“内側の生活”について話しているのです。

今日も、この町で起こりました。

それが、また動き始めたのです。

私はそれを感じました。

「ああ、まただ。」

私は言いました。

「いいかい、あなたは向こうのドラッグストアへ行って、あの赤ちゃんのための塗り絵帳を買ってきなさい。」

その子は一日中、部屋にいなければなりませんでした。

「みんな、先に戻っていなさい。

いつ聖霊が私を解放してくださるか、わからないから。」

41 それから私は、通りの端のほうへ歩いて行きました。